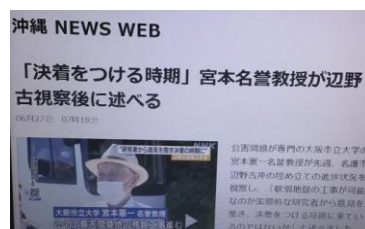


## 宮本憲一先生、辺野古から提言

写真は NHK 沖縄ニュースで 27 日に放映された宮本憲一先生らの 24 日の「辺野古視察」。昨日、沖縄の友人から送られたものだ。じつは沖縄視察に参加しなかったが、残念ながら、行くことができなかった。

宮本先生は辺野古の埋め立てについて、映像のなかで次のようにコメントしている。

「軟弱地盤の工事が可能な  
のか国際的な研究者から意見を  
聞き、決着をつける時期に来て  
いるのではないか」。なんだか、  
あつかましいが、現地映像から  
宮本先生の辺野古埋め立てへの  
提案を紹介した。



翌 25 日には、那覇市で沖縄環境問題特別シンポジウムが、日本環境会議と沖縄環境ネットワークの主催で開催された。テーマは「琉球弧における防衛施設整備と環境問題」であり、宮本先生が「沖縄の本土復帰 50 年に思う」と題して基調講演した。ズームで視聴したが、いつものように示唆に富む講演であった。

前日の辺野古視察、そして 1969 年の初めての沖縄調査から話が始まった。「基地の中に沖縄がある」ことに衝撃を受け、調査研究や提言をつづけ、本土復帰 50 年の沖縄の現状と課題を指摘する。ここではスライド「アジアの平和と経済と文化の発信地」を写真に撮ったので紹介したい。

- ・今の沖縄の国際的役割は日米軍事ブロックのアジアへの最大の軍事拠点とされている。
- ・沖縄の今後の国際的役割は地球危機の下で最大の被害を受ける島嶼国・地域の先進地域として、その危機を防止する科学や技術の拠点ではないだろうか。
- ・沖縄の大航海時代の歴史を再現する夢は、アジアとの物流・教育・文化の発信地になることであろう。
- ・そのためには中国敵視論でなく、日中友好・平和外交を進めるべきである。かつて福州には沖縄県の行政との交流の拠点があつた。アジアの平和のための外交努力をあらゆる部門で行うべきではないか。
- ・復帰 50 年、今こそ日本人は沖縄のこころの実現に努力すべきではないか。

(2022 年 6 月 28 日)